

相談支援つうしん

<第71号>2021年4月19日
県立湘南養護学校 支援連携部
相談支援係 ~教師編~

2021年度が始まりました。今年度も校外内のさまざまな指導実践や役に立つ知見についてご紹介いたしますので、参考にいただければ幸いです。

さて、昨年度末の70号で不適切な行動を減らす手立てとして、レベル1：分化強化についてご紹介しましたが、今回は、レベル2：消去（強化しない）手立てについてご紹介いたします。

<不適切な行動を減らす手立て>

レベル1	分化強化手続き
レベル2	消去（強化しない）手続き
レベル3	求めている刺激を撤去
レベル4	嫌悪刺激が行動に随伴する

- ①消去とはどんな方法
- ②消去抵抗と消去バースト
- ③分化強化と消去を組み合わせる

え、何!?やめてください。

事例に沿って考えていきます。湘南タロウ君は知的障害と自閉症を併せ持つ男子です。タロウ君には1つ困った行動があります。それは、人を叩くことです。突然叩かれた相手はびっくりしてしまいます。その行動を見ていると、“ねえねえ”と人の注意を引く行動のようです。確かに、叩かれた相手は必ずタロウ君の方を見たり、「何?」「やめて」などと言ったりします。つまり、注目されるのが好子（強化子）となって、叩く行動が形成され維持されていると考えられます。そこで、この仮説に基づいて、タロウ君の叩くという行動の消去を考えてみます。



<行動の前後の環境の変化>

直前の状況	行動	直後の状況
注目なし	先生を叩く	注目あり

①消去とはどんな方法か

行動の消去は、言い換えると行動を強化しないことです。すなわち、行動に伴う好子を与えないことです。タロウ君の場合、叩けば必ず注目（反応）という好子を得られるので、注目することを止めます。今まで得られていた好子がなくなれば、やがて叩かなくなるはずだと自分に言い聞かせます。

うわ！びっくりした。でも反応しない



②消去抵抗と消去バースト

あれ？おかしいな。もっと強く叩いてみよう。

う！ちよっと痛いかも



しかし、徐々に叩く力が強くなってきます。これは消去バーストと言われる現象です。今まで得られていた好子が急に得られ

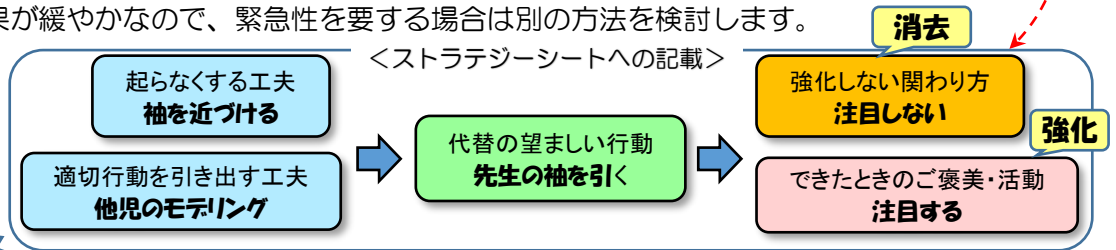
なくなると、一時的に行動がエスカレートします。ここが勝負どころです。耐えきれずに「痛い！」などと反応してしまうと、次からその強さで叩いてくるでしょう。そのため、消去バーストを予め予想しておき、対策として叩かれても痛くない位置取りを心がけたり、叩かれた後には何事もなかったかの

ようにその場から立ち去り、それ以上叩かれないようにしたりします。叩いて注目を得られた期間が長かったり好子が強かったりするほど、消去抵抗が強くなり消去に時間がかかります。

③強化と消去を組み合わせる

消去は正しい行動を教えるわけではありません。叩いてダメなら蹴ってくることにもなりかねません。そのため、タロウ君には他児が先生を呼ぶときの様子を見せて、モデリング（代理強化）を用いて代わりとなる適切な注目の引き方の学習として、タロウ君が先生の袖を引いたときに注目したりするなど、実際は消去と合わせて強化する手立てを組み合わせたほうが効果的なことも多いでしょう【下図】。

また、消去の手立ては、弱化と異なり嫌悪刺激を用いない安全な方法ですが、他の子どもに他害をすることで注目を得るなどの行動に対しては、他児に反応しないようお願いするわけにはいきません。さらに、比較的効果が緩やかなので、緊急性を要する場合は別の方法を検討します。



④重要：要注意

せっかく消去できつつあった行動が復活したり、一向に減らなかつたりすることがあります。次のような場合が考えられるのでご注意ください。

✦ 無視する＝消去ではない

なくしたい/減らしたい行動の好子が注目であるなら、**無視＝消去が成り立ちますが**、人を叩いたときの手の感触が好子の場合は、人でなくても叩けば好子は得られるので、**無視≠消去となります**。消去はあくまで好子を与えないという意味なので、好子を特定することが重要です。タロウ君の場合も、注目が好子であると仮説を立てて消去に取り組み、効果がなければ再度好子が何かを検討しなおします。

✦ 消去するなら徹底する

また、消去を行っている過程で、つい好子を与えてしまわないことが重要です。タロウ君の場合だと、叩かれたことについて反応してしまうと、“**何回か叩けば反応してくれるのだ**”と学習してしまい、逆に消去抵抗が強まって行動を維持する結果となってしまいます。ギャンブルが好きな人は、この行動の原理が働いていると考えられます。加えて、消去は般化されにくい特徴があるので、周りの方にも同じように対応してもらいましょう。



✦ 自発的回復

タロウ君の場合、せっかく消去されていた行動が忘れた頃に復活することがあります。これは自発的回復と言われる現象です。自発的回復が生じたときには、改めて消去を行うことが肝心です。誤って強化してしまうと、ふりだしどころかマイナスになってしまいかねません。そのため、この現象について知っておくと、落ち着いて対応することができるでしょう。

指導の場面では、何度注意をしても嬉しそうな表情を浮かべたり、行動が一向に改善されなかつたりする場面を見たことがあるかもしれません。叱られている意味自体をそもそも理解しているかどうかだけでなく、注目が好子となって不適切な行動が形成/維持されていないかについて、再度確認してください。

<参考文献>

佐藤方哉 島宗理 杉山尚子 1998 行動分析学入門 産業図書